

国内向けノベルティデザインの研究

長谷川恵子 矢野 強 今西千恵子

Designing of Novelties for Domestic Market

Keiko HASEGAWA, Tsuyoshi Yano and Chieko IMANISHI

ノベルティ製造技術を活用した国内向け製品として、現代の住まいやライフスタイルに合った趣味性、装飾性の高い室内装飾品のデザイン開発を目指し、住宅の実地調査、インテリアに関するアンケート調査等を行った。その結果に基づき、30才代の若い家庭の玄関・ニッチのディスプレイ、壁面の装飾、リビングルームの演出をテーマに、小物入れ（印鑑、鍵入れ）、インテリアフック、時計、ミニフレーム、アクセントランプのデザイン開発をし、試作を行った。

1. 背景

瀬戸のノベルティ製造業界にあっては、海外市場向け商品から国内向け商品への転換が模索されているが、そのためには現在の生活観や消費ニーズに合う製品開発が必要である。

国内の状況を見ると、インテリアコーディネート、テーブルコーディネート等への関心の高まりに見られるように、消費者の関心は生活の質的向上や豊かさ、快適さ、そして自分らしさを目指す方向に向かっている。そのような生活空間づくりに適した商品として、本年度は住宅やインテリアの実情と生活者のニーズに合った室内装飾品のデザイン研究を行った。

本研究の狙いは次の4点である。

- ・住まいをより豊かで快適なものにする小道具としての陶磁器製ノベルティの提案
- ・近年大きく変化したインテリアと生活者のニーズに対応した製品企画
- ・ノベルティ製造業者が得意とする装飾性の高いデザイン・当産地で使用されている多様な素地、加飾技法の活用

2. 調査

2.1 調査方法と内容

デザイン開発の背景となる使われる場所、使う人の状況と傾向を把握するために、モデル住宅4件、一般住宅1件の実地調査、インテリアに関する生活者へのアンケート調査、及び雑誌等の出版物から関連資料の収集を行った。

住宅実地調査とアンケート調査の内容については表1、表2に示す。

2.2 調査結果

2.2.1 住空間の傾向

調査の結果、最近の住空間には次の傾向が見られた。

住宅様式

最近の住宅は戸建て、集合住宅を問わず、一般に洋間主体であり、日本間の占める比率は低くなっている。

リビングルーム

リビングルームが広くなり、暮らしの中での役割も拡大した。家族の集まる生活、団らんの場、さらに来客を迎えるパブリックスペースとして住まいの中で重要な位置を占めている。

ニッチ

ニッチは玄関や廊下等の壁面に設けられた比較的浅い窪み状のディスプレイ専用スペースである。伝統的な日本の住宅には、床の間が設けられ、掛軸、生け花などで季節感のある飾り付けが工夫されていたが、ニッチはその現代版ともいえる。その他、玄関のシューズボックス周辺、出窓等もディスプレイスペースとして、ニッチに類するものと

表1 住宅実地調査

種別・件数	調 査 先
モデル住宅 (一戸建て) 4件	中日ハウジングセンター内 (大和ハウス、三井ホーム、住友林業、 ハウジングアート)
一般住宅 (集合住宅) 1件	春日井市内 4LDKマンション 4人家族：夫31才、妻32才、子供2人

調査内容：住宅の傾向

構造、間取り、素材、インテリア、照明等

表2 アンケート調査

対 象	名古屋及びその近郊在住の女性
被験者数	80名
年齢別内訳	20才代：28名 30才代：26名 40才代：17名 50才代：9名
方法	質問紙法（多肢選択複数回答、自由回答） 及び面接法
内容	インテリアの嗜好について 重視する要素、好ましい室内イメージ 飾り付けの対象となる場所、飾るもの

考えることができる。

照明

従来の一室一灯から、複数の照明による「光の調節」へと変化している。ウォールライト、ダウンライト、スポットライト、スタンド等多様な照明を場面や用途に応じて使い分け、その場面にふさわしい雰囲気を演出する。

窓

採光、換気などの機能面の他、部屋の雰囲気づくりや空間に変化や広がりを与えるという感覚的な側面が重視され、ベイウィンドー、ボウウィンドーなどの出窓、トップライトなど様々なスタイルの窓が見られるようになった。

壁面

造り付けの収納や、家具調度類の高さを押さえるなどの工夫がなされ、壁面はフリーになり壁面装飾の可能性が広がった。その一方で現在一般に普及している壁面素材、石膏ボードには素材的な特性から重量物を支えられない、釘等が利かないなどの短所があり、壁面装飾の制限となっている。

内装材

木質系フローリングが増えているほか、石材、レンガ、珧器タイルなどの自然な素材感を取り込んで楽しむ傾向が見られる。

2.2.2 インテリアの嗜好

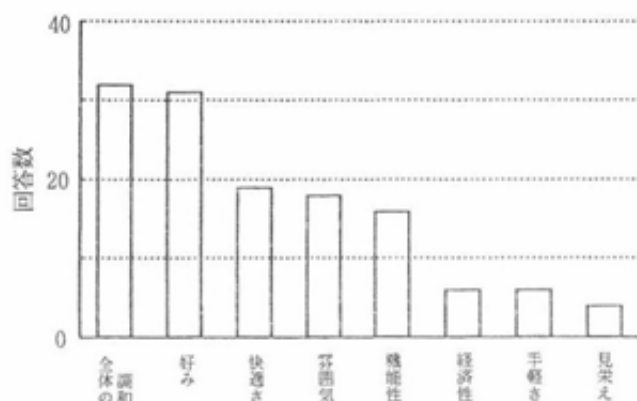


図1 インテリアで重視する要素

アンケート調査の結果次のような傾向が明らかになった。
インテリアで重視される要素 (図1)

インテリアを考える上では全体の調和、好み、快適さ、雰囲気、機能性が特に重視される。

好ましい室内イメージ (図2)

落ち着き、過ごしやすさ、ゆとりなど、快適性に関わる要素が重視され、質のよさ、自分らしさや趣味を活かすことなどによる内面的充実が目指されている。ナチュラルな雰囲気や自然素材を好み、お洒落でセンス良くまとめたシンプルですっきりした統一感ある室内が好まれるが、反対に「過剰さ」や「人工的」「出来合い」といった要素は敬遠される。和・洋の好みは、40才を境にして、30才代までは洋風を好み、40才以上、年齢が高いほど伝統や格調を重視し和風を好む傾向が強い。

飾り付けの対象となる場所 (図3)

リビング、玄関が最も重視され、窓際、ダイニング・キッチン、寝室と続く。20才代、30才代では特に窓際の飾り付けへの関心が高い。

飾るもの (図4)

花器、観葉植物、絵・額、インテリア照明、置物・人形、時計などの人気が高い。年齢別の嗜好を見ると、インテリア照明は20才から30才代では他の年代に比べて嗜好が高い。全体で上位に置かれる置物・人形は20才代では人気が低い。

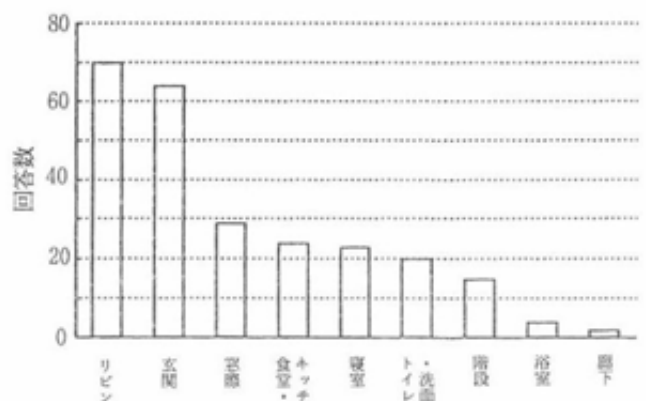


図3 飾り付けの対象となる場所

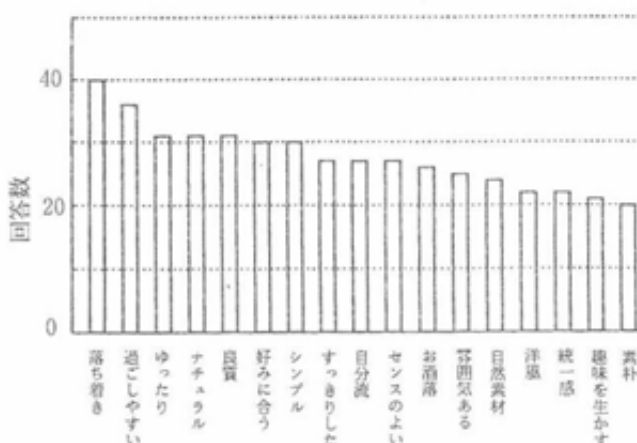


図2 好ましい室内イメージ

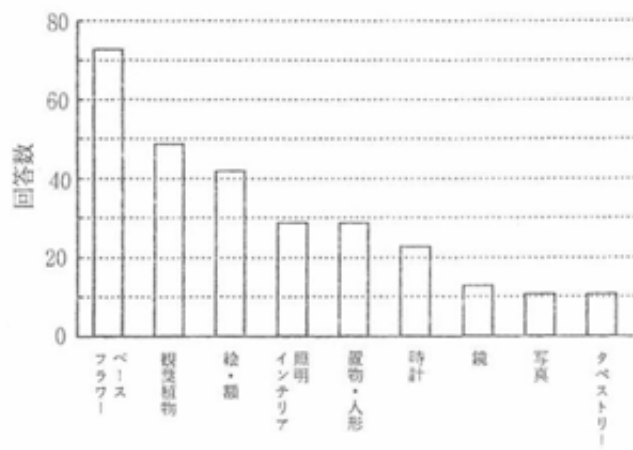


図4 飾る物

また、掛軸、壁飾りは50才以上に好まれ、高齢層のアイテムとなっている。

陶磁器製インテリア用品に対する要望

飾り方を工夫したりアレンジできるもの、価格が手頃なもの、機能性のある装飾品、動きのある軽量の壁飾り、大人の感性にあうもの等が挙げられている。

2.2.3 ライフスタイル、消費行動

マーケティング情報誌から、最近の生活者の価値観、生活態度、消費行動に関するキーワードを抽出し(表3)デザインの参考とした。

表3 ライフスタイル、消費行動の変化

価値観の変化	家庭回帰 在宅願望 自分価値軸の確立
外から内へ	
量から質へ	シンプルライフ志向 環境のアメニティーへの関心 自然志向 ホンモノ志向
生活態度の変化	ゆとり、自由、心の豊かさ、生き方の
モノから心へ	充実、コミュニケーション等を重視
消費行動の変化	価格より心理的価値優先 不要品は買わない 自己実現型消費 コストパフォーマンスに敏感

2.2.4 調査結果の分析

自然志向、シンプルライフ志向等の新しい価値観を反映し、家造りやインテリアにおいても機能面の充実とともに、ライフスタイルにあった快適な住まい造りが目指され、広いパブリックスペース、ディスプレイを意識した設計や家具の配置、照明による雰囲気演出、解放感のある壁面等新しい傾向が見られる。室内装飾等においても、年齢の高い層では、和風、伝統、格調、見栄えなど旧来の価値が尊重されるのに対し、年代的に若い人ほど洋風の室内を好むとともに、出来合いのものを嫌い、自分の価値観に基づいた住まい造りに積極的であり、趣味や好みを生活に反映できるインテリアツールを求める傾向が強い。

このようにインテリア、住宅観、室内装飾への取り組みの姿勢は40才を前後に大きく異なるが、将来的には今の若い世代に特徴的な新しい傾向が主流になると考えられる。

3. デザイン及び試作

調査結果を踏まえて開発テーマを「30歳代の若いファミリーの住まいを飾る」とし、飾り付けの場として家の顔となる玄関、家族や来客とのコミュニケーションの場となるリビングルーム、若い年代に注目されている窓際、家具類から解放された壁面、最近の住宅に見られるディスプレイスペース、ニッチを設定した。開発アイテムについては飾り付けの場の雰囲気や特性に調和し、演出効果が高い、ディスプレイや用途の工夫が楽しめ、趣味や個性を反映できるなどの要件を満たすものとした。

デザインにあたっては、陶磁器の持つ情緒性、質感、素地の特性を活かすことを目標にし、壁面に飾るものについては壁への負担を考慮し、小さく軽量ながらもお洒落で魅力ある製品を目指した。試作にあたっては当産地の得意とする生産技術と原料を活用した。

各アイテムの製作意図は次のとおりである。試作品のデータは表4に示す。

小物入れ (写真1、2)

玄関やニッチに飾る素朴な小物入れ。キーや印鑑などの小物を入れて使うことができる。キツネと魚、ゾウと小鳥という物語性のある組み合わせにより、演出効果を高めた。インテリアフック (写真3、4)

実用性を備えた壁面アクセサリ。鳥、うさぎという親しみある動物をモチーフとし、染付、いっちゃんなどの伝統的な加飾を施すことにより、上品な質感と情緒のある大人の感性に合う製品とした。

時計 (写真5～8)

壁面やニッチを飾る小さな時計。シンプルなボディに上絵や下絵の彩り豊かな加飾を加え、お洒落に仕上げた。振子を付けることにより動きのあるアクセサリとなる。

ミニフレーム (写真9～11)

壁面に季節感や住む人の趣味を演出する小さいアクセサリ。狭いスペースには単品で、広いスペースには複数並べてディスプレイが楽しめる。様々な季節の風物、植物、魚、動物などのシリーズ展開が可能である。

アクセントランプ (写真12、13)

リビングや窓際を演出するアクセサリランプ。白磁と珧器の透光性の差を活かしたデザインである。シェードのレリーフとベースの透かしにより光と影の効果をねらった。

表4 試作品データ

品 名	材質	製 法	軸 ・ 加飾	サイズ H・W・D (単位:mm)
小物入れ	珧器	手びねり成形 ガス炉1280℃還元焼成	ビスク、白化粧土 (内側天目釉)	300×80×85, 240×60×10 (キツネ) 250×110×85, 210×90×60 (ゾウ)
インテリアフック	磁器 白磁	排泥焼込成形 ガス炉1280℃還元焼成	透明釉、いっちゃん 染付、金彩	45×60×55 (野うさぎ) 80×65×65 (白鳥)
時 計	白磁 古染	排泥焼込成形 ガス炉1280℃還元焼成	透明釉、染付 上絵、金彩	φ120×18 (大) φ 87×11 (小)
ミニフレーム	白磁 古染	排泥焼込成形 ガス炉1280℃還元焼成	透明釉、上絵、下絵 ビスク、化粧土	φ120×18 (大) φ 87×11 (小)
アクセントランプ	白磁 珧器	排泥焼込成形 ガス炉1280℃還元焼成	透明釉、サンドブラスト加工 ビスク (ベース部分)	φ200×210

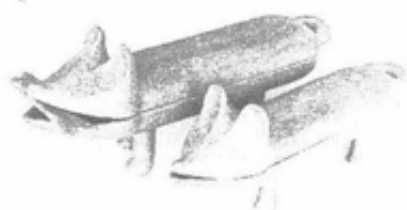


写真1 キツネ小物いれ



写真2 ゾウ小物いれ

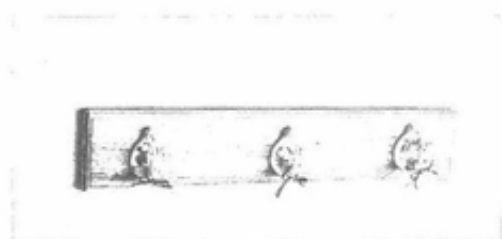


写真3 インテリアフック (野うさぎ)

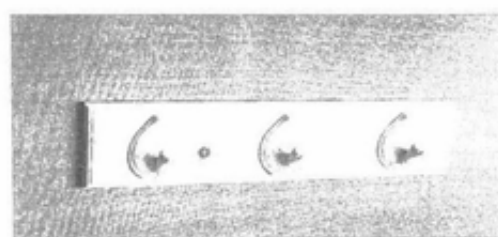


写真4 インテリアフック (白鳥)



写真5 時計

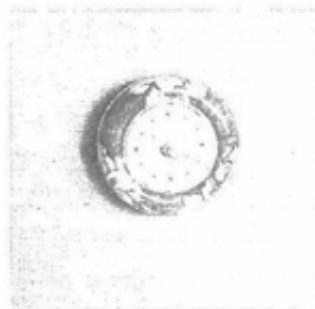


写真6 時計 (小)

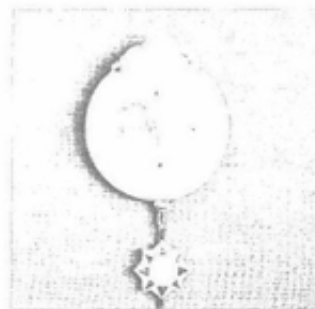


写真7 振り時計

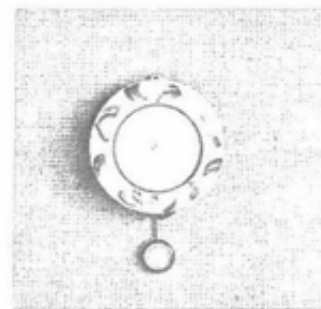


写真8 振り時計 (小)



写真9 ミニフレーム (秋)

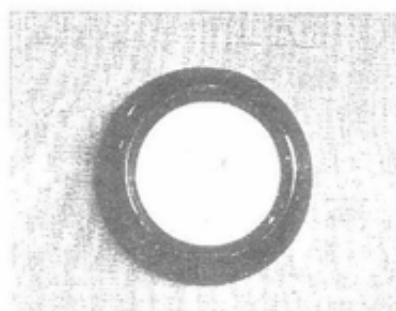


写真10 ミニフレーム (野鳥)



写真11 ミニフレーム (冬)



写真12 インテリアランプ (花火)



写真13 インテリアランプ (小鳥)